

## 8. 地域創生

### 8.1 地域創生委員会（能登キャンパス構想班・COC+・グローバル人材育成班）

委員長：川島 和代 教授

委員：西田事務局長、垣花教授、平居教授、金子准教授、松本勝准教授、田村講師、  
藤田特任教授

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

令和元年度から、グローバル人材育成、能登キャンパス構想推進協議会（主に能登祭りの環実行委員会）、COC+に関する事業等の活動を「地域創生委員会」に集約し、活動の効率化・スリム化を図った。令和2年度終了時点では、委員会運営の年度半ばではあったが、委員会メンバー構成が変更となり委員会の運営が円滑となるよう実施する。また、本委員会が臨時委員会であり、今後の方向性について検討していく必要が課題であった。

<今年度の目標・年度計画>

令和3年度、本学では新型コロナウイルス感染症のため学生や教職員の地域活動の範囲をCOVID-19対策会議の方針を参考にしながら少しずつ拡充を図っていく予定であった。活動の一つである能登キャンパス構想推進協議会の事業の一つである『能登祭りの環』は、まつりの開催の動向を見ながら参加を検討する。感染状況の推移を見守りながら、大学コンソーシアム石川の産学官連携人材育成専門部会や能登キャンパス構想推進協議会等から事業等の情報収集を行い、教育研究審議会報告しながら、大学の運営方針に反映していただくこととした。

<今年度の活動実績・評価>

#### 1) 委員会の開催

地域創生委員会は、4回（6月15日、8月4日、10月7日、3月4日）開催した。本委員会の今後の方向性として地域活動の支援や単位化をめざしてグローバル人材育成につなげることを主目的としているため、次年度からは地域ケア総合センター事業に吸収していくこととなった。

#### 2) 能登キャンパス構想班（川島、平居、松本勝、田村、藤田）

協議会（年2回）と幹事会（年4回）、実行委員会（年4回）へ出席した。今年度7月には「祭り支援プロジェクト（能登祭りの環インターンシップ事業）」で本学が担当している能登町の矢波諏訪祭りは開催の中止が決まったため活動は休止した。その中で能登地区の病院紹介ブースや奥能登のさまざまなイベント紹介コーナーの更新を図った。

#### 3) COCプラス・グローバル人材育成班（川島、垣花、金子）

大学コンソーシアム石川産学官連携人材育成専門部会（年4回）において委員長川島が副部長、審査委員を継続することとなった。今年度から「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」に本学のプログラムが承認されており、8月に学生への周知を図った。しかしながら、コロナ禍のため本学のグローバル・ヤングリーダー等、グローバル人材の育成には令和3年度も至らなかった。過去、本学においてグローバル・ヤングリーダー等の称号を獲得した卒業生

その後の活動を明かにし、本事業の効果を検証するためアンケートを実施した。称号獲得者の12名のうち4名からしか回答が得られなかったが、概ね前向きな回答であった。継続的な動向調査の方法を検討していく必要がある。

<次年度以降に向けた課題・発展>

本委員会は臨時委員会であったが、今期で本委員会の活動は終了し地域ケア総合センターの地域貢献部会に引き継ぐこととなった。